

19年度 第4回安全・安心・すこやか部会 摘録

□開催日時 平成19年8月9日（木） 午後15時00分～17時00分

□会場 幸区役所5階 旧建築課スペース

□参加委員

専門部会A委員：末兼卓副部会長、青山一、荒井康男、小林豊、綱川幸子、萩原保夫、
葉山直次委員

事務局（総務企画課）：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員

□次第

1. テーマ「身近な地域での高齢者の健康づくり」の部会検討まとめの内容確認と報告の役割分担について
 - (1) 部会検討まとめの説明について
 - (2) 報告の役割分担について
2. その他
 - (1) 3番目の検討部会のテーマについて
 - (2) 次回開催時期について

議事進行：末兼卓副部会長

1. テーマ「身近な地域での高齢者の健康づくり」の部会検討まとめの内容確認と報告の役割分担について

(1) 部会検討まとめの説明内容について

事務局説明

(末兼副委員長)

事務局の説明について何かありませんか。前回の部会から変わっているのは、増進取り組みのところを小学校エリアで取り組もうというところであるが、これはどうか。健康づくりの応援団に、例えば、小学校エリアごとに支部ができ、そこで集まって実施していくというもの。それはどうか。

(青山委員)

課題は、開催する場所が近くでないといけないということである。小さいグループで身近なところで開催することが重要だと思う。

(末兼副部長)

青山委員よりあったように身近なということで、足腰が弱い方もいるので、小学校区くらいの小さなエリアで開催し、区は、区として全体でやったらどうかということ、小さなエリアでは老人クラブなど既存の団体がやっていくということ。いかがか。

(荒井委員)

前回出席していないが、よろしいかと思う。

(葉山委員)

良いと思う。

(末兼副部長)

健康維持・健康増進については、今のような説明をしたい。この次に発表者を決めるので、そこで具体的に発表方法を考えてほしい。

(事務局)

検討のまとめの3であるが、前回の部会では意見が出たのだが、もう少し具体的にしてほしい。

(末兼副部長)

今は検討のまとめ1を検討しているので。順番にやっていく。

次は検討のまとめ2の健康づくり・介護予防の情報発信だが、みなさんに集まっていただくためにはどうするかということ。昨日も介護要望にならないためにということでパンフレットが配られているし、市社協でもやられていると思うし、老人クラブでもやられていると思う。そういうものをまとめた情報発信をやりたいということで。今回はこういう形で発表させていただくことでよろしいか。

検討のまとめ3について、健康づくり応援団をつくろうということで、事前に話し合ったのだが、部会のまとめとしてつくりたい。まずは健康づくり応援団とは具体的にどういうものなのかをまとめたい。応援団がやるのか、方針を区民会議がやるのか。そういう形で早急にやってほしい。あくまでも、我々はウォーキングという切り口でスタートさせていこうという立場をとっている。健康づくり応援団というなかで、健康福祉局なり、スポーツ団体なり、区民会議なり、いろんなところの意見をまとめて一つになった形での応援団づくりをしていきたい。

(荒井委員)

活動の実施も考えていかないと応援団づくりができないのではないか。例えば、一度に全部の地区ではできないと思う。日を変えて順々にやっていくとか、今日は幸区ではウォーキングの日

である、というような形でやるのか、具体的なやり方を考えていけないといけない。ある地域ごとにやるんだったら、ウォーキングの専門家を入れて、主催は区民会議とか区役所とか、ちょっとしたイベントのときにやってもらうとか、なんとなくそんなイメージが考えられる。区で一度にやるのか、各地域でそれぞれでやるのかイメージする必要があると思う。あるいは、区に大きな応援団をつくって、下部組織と言ったら失礼だが、各地域に小さな応援団をつくるといったものもあると思う。

(小林委員)

小学校区でやるときに具体的にどういう立ち上げができるのか。まずは、いくつかの地域で立ち上げてみて、増やしていく。区でやるのは年に1回くらいしかできないと思う。いくつかの地域で立ち上げて、徐々に増やしていくのが良いと思う。はじめから13地域で一気に立ち上げるのはよくないと思う。

(末兼副部長)

活動されている団体は、町内会みたいな単位でやっていると思う。そういうことから全区の一つでやるのではなく、町内会ごとなど小さなエリアでやった方が良いと思う。核になるものを区役所に一つつくり、その次に小学校区くらいのエリアでつくり、実行委員会みたいなものを立ち上げる。エリア毎に、社協だったり、老人クラブだったり、できるところがやるなどエリアによって違う。ただし、区でやるのは、大きなグループ団体でやるというのが良いと思う。

(荒井委員)

応援団は、エリア毎に実施する団体が違っていいのだが、求心力があった方が良いのではないかな。

(末兼副部長)

荒井委員の言われたように、もっと芯があるものが良かった方が良いのではないかなという意見があったが、他のみなさんはどうか。もちろん両方の考えが必要で、区として芯があって、各エリアでは、既存の団体が動いてくれるような。集約してどうするのか、そのエリアではどうするのかを考えながら行っていく必要があると思う。その調整が大変だが、それを乗り越えていけないといけない。

(荒井委員)

区がある地域、例えば、南河原小学校なら南河原小学校で、老人クラブなら老人クラブに実行委員会みたいなものを組織してくださいというのは、区が言うのか。

(末兼副部長)

区が言わないと話がまとまらないと思う。区民会議からだとまとまらないと思う。

(荒井委員)

例えば、実行にあたって、委員に区民会議のメンバーがいるのではなく、区だけで各地域にお願いするのか。

(末兼部長)

そのあたりが、まだまとまっていないので、全体会までに整理しないといけない。どうすればよいのか応援団の形が二つあると思う。各地域に対する応援と、自分たちでやっていくための応援団とあると思う。現在うまくやっているところは支援する応援団。なにもやっていないところに対しては指導的にやってもらう形があると思う。

(荒井委員)

全体会までに応援団をどう捉えて、具体的にどうイメージしていくか方針を打ち出さないといけない。批判あるなしに別として。

(事務局)

応援団とは何なのか具体的なものを検討してほしい。応援団という言葉だけは出てきているが、具体的には何なのか、もう少し検討する必要がある。

(末兼副部長)

応援団でもサポーターかアシストか、それによってだいぶ違うと思う。小さなエリアの中ではアシストとやっていく。区レベルではサポーターとしてやっていくと2つの性格があると思う。スポーツクラブさんでも介護者にならないためにということでもいろいろやっているが、どういうふうに捉えているのか。あくまでも健康ということでは我々は捉えているのだが、いろいろなやり方がある中でウォーキング、こちらではいろいろなトレーニング、文化的面とかいろいろな捉え方などがあるが、健康ということに対する応援団。その辺を明確にしていけば良いと思うのだが。

(荒井委員)

各実行委員会となっているので地域任せで良いと思うのだが、ただ意見統一の機会を設けた方が良い。

(末兼副部長)

そうすると、実行委員会を立ち上げるということは、どういう実行委員会かということなのかということ。全域の実行委員会なのか、エリア毎に立ち上げるための実行委員会なのか。ここで方針を決めないといけない。

(萩原委員)

幸区健康応援団ということで話し合っているが、そこから実行委員会となるとすると、そこから情報発信とか講師の派遣とか考えていけないといけない。また、情報を発信するだけでなく、地域でもそれを受け取る方がいないといけない。そこで受け止めて自分たちの地域に声をかけながら流さないといけない。そういう風に発展していくイメージはどうか。そういう計画を実行委員会で持って動いて、地域に情報発信していくような形になっていくのであろうか。

(荒井委員)

極論はそういう感じではないか。まだない地域とかは、それをきっかけに動く。現在やっている地域は、さらに活発にしていく感じだと思う。

(網川委員)

健康応援団とは何だろうかということを考えると、健康寿命を長くするんだということと、長くするための旗振りをするんだと、旗振りをどうしようかとその2点をだと思う。

(末兼副部長)

その旗振りをどうするとお考えか。

(網川委員)

いくつかに分けて、区役所から情報を発信して、それ以外にないのかなと、それで地域から情報が集まってきたら話し合いをするような。団体についても何かできることがあったらやろうよと、そこまでいかないと骨がないような気がする。

(末兼副部長)

目標というのか、単なるウォーキングだけでなく、みんなで集まった清掃しようよとか、それは将来の発展形であって、そこまで求めるのか、最初はあるまでもウォーキングをやるのか、その辺のところを。

(網川委員)

そのときの具合とか状態をみて、無理そうならできるところをやるので良いと思うが、やっぱり目指すべき構想みたいなものがあった方が良い。

(末兼副部長)

応援団という形でありながら、将来的には、そのエリアに貢献できるような、今回は高齢者の健康という形であるが、例えば、子どもたちのこと、ゴミ拾いのことなどができるかと。それは将来形であって、区民会議の全体会でそこまで入れておくかどうか。

(萩原委員)

健康づくりはすべてに繋がると考え方があると思う。今回はウォーキングに絞っているが、健康づくりすべてに対して、何らかの形で係わっていくと思う。それがさらに発展してきたときに、いろいろなボランティアや地域活動に繋がるとか、それらを含めて考えた方が良くと思う。

(末兼副部長)

だから、健康じゃないと何もできないんだよと、それも含めて考える。また、先ほど出たように、ウォーキングのやり方を教えていただいて、みんながやっていくんだよということ表現したいのだが、言葉にすると難しい。今は切り口としては、今の話があって、区民として将来は区のコミュニティとしてやっていくんだよということを目指すと思う。事務局どうか。

(事務局)

これまでの話を聞くと、幸区全体の応援だとして大きなものができて、そこが区役所とタイアップしてウォーキング大会とか健康づくり事業とかして、もう一つは地域ごとの小学校くらいのエリアを対象にした健康福祉事業をるところがあって、区全体の大きな応援団は、その地域の団体を応援する。小学校区くらいのところで健康福祉事業をやることによって、そのまとまりが小さな応援団みたいな形になる。諸団体が協力しながら活動できるように大きな応援団が動く形になる。

(末兼副部長)

その応援団もね、健康づくりを除いてしまえば、幸区応援団となる。将来的にはそこまでなるとよいと思う。今回は一つの切り口としてウォーキングと健康づくりになる。

(荒井委員)

それは違う。テーマが健康づくりである。今回は、健康づくりのためにやるのがウォーキングということである。話し戻れば将来はボランティアにつながるとか良いことだと思うが、今は、

健康づくりをテーマにして、その一つとしてウォーキングということにしないとおかしくなると
思う。

(末兼副部長)

高齢者と健康というテーマで、小さなエリアで立ち上げて、モデル地区でもいいからどこかで
立ち上げる。そういった形でよろしいか。

(荒井委員)

どういう組織にするか議論しなくて良いのか。大旗振りとか、趣旨とか、もっと別個な委員会
があってやってくれるのか、この部会で検討しなくてはいけないのか。

(事務局)

もともとは、部会まとめ1、2で言われている高齢者の健康づくり事業というのがあるが、そ
れを大きな旗を振る応援団をやりましょうということなので、応援団になりませんかという呼び
かけを区役所でして応援団という団体ができてくるのかなと。区役所が、応援団の方で持って
いる区民のニーズをききながら、例えば、こういう講演会をやる。地域では、各応援団の関係団
体が何かやりたいのであれば、その応援団があるところに働きかけるとか、区役所に声をかけると
かとういった形ではないか。

(萩原委員)

具体的に実行委員会が旗を振らざるを得ないのかな気がする。

(事務局)

小さいエリアの取り組みが小さな応援団になって、関係する団体が大きなくくりがなくても動
けるのが良い。

(荒井委員)

そのような形で提案して何かあれば、修正していくのが良いのではないか。

(葉山委員)

応援団をつくるとなると、主体をある程度決めておかないといけないのではないか。事務局の
資料にも書いてあるが、どうするか。もう一つは生きがいと書いてるが、これは前回の全体会で
問題になった。生きがいというのをどう感じるのか。大下さんの講演を聴いて生きがいになっ
たとか、ウォーキングして健康になって生き甲斐を感じるとか、どういう活動が高齢者の方が生き
がいを感じるのかなど、それを応援団が情報発信する発信地、それを決めないと、焦点がぼやけ

ちやうような気がする。事務局の方でもいろいろお考えがあると思うが、その辺がいまいち見えてこない。組織つくると言ったら大変なことになる。これはあくまでも高齢者を対象とした、健康で生きがいをもてる地域づくりということなので、もう少し絞って考えた方が良い。前回までに一応ウォーキングに絞っていきましょうということになったので、それを中心に考えれば良いと思うが。

(末兼副部長)

キーワードは、高齢者、ウォーキング、コミュニティ、これに対してどういう応援団をつくるか。行政へはこういう形の組織をつくってほしい、といった提案でよろしいか。それ以外に将来の発展形があると思うが、今回はこのキーワードで提案したい。地域でやっていた団体ではなく、区全体をみられる団体を実行委員会に入れていただく。地域でやっている団体は地域でやっていただく、そういった提案でいかがか。

(萩原委員)

非常な無責任な言い方なのだが、提案しっぱなしで良いのか。区民会議の性格上、仕方ないと思うが、提案しっぱなしの感じがする。

(末兼副部長)

前回は防災の提案をしたときに、その後に区役所の方でモデル地区として立ち上がった。今回も区役所の方でモデル地区みたいな形で1つか2つ立ち上げて、できたらフィードバックしていただく。

(荒井委員)

区民会議の性格上、提案までである。それを行政の方で早い時期に実施するかどうかである。こういうことを我々は考えたのだからやってください、というところまでである。

(萩原委員)

実行委員会を立ち上げてくれと言っておいて、我々は実行委員会に入らなくて良いのではないかと思う。

(2) 部会まとめ報告の役割分担について

(末兼副部長)

部会としてのまとめはこのような形でやるとして、発表者を決めて、その人が具体的に発表方法を事務局と考えてほしい。部会の状況報告の説明は私がやりますが、部会まとめの1と2は、萩原委員、部会まとめ3については小林委員、補足説明を荒井委員の方で説明してほしい。

※全体で了承

2. その他

(1) 3番目の部会検討テーマの選定について

(末兼副会長)

3番目の部会検討テーマの選定について事務局より説明を願う。

※事務局説明

(末兼副会長)

次のテーマについてはどうするか。ここでとりあえず決めないといけない。

(小林委員)

再開発の問題については進んでるので、特に取り上げる問題ではない。自転車については、歩道を走ってはいけない。しかし、歩道を走らざるを得ない状況である。これをどうするか。

(葉山委員)

車道を走るとなっても大変である。排水口もあるし。

(末兼副会長)

住環境はここでは取り上げることはないということだが、どうかと思う。

(小林委員)

住環境は、テーマが広すぎるのではないか。

(末兼副会長)

これ以外に今までやってないとすると、魅力づくりと市民活動、緑化推進、コミュニティ対策、その他ということになるが、この中から選ぶかどうか、他を考えるか。緑化推進も住環境になると思うが、他のことも住環境に繋がるとは思うが。

(小林委員)

そういうのも含めて住環境に入ってくるが。

(末兼副部長)

住環境はいろいろかわってくる。この辺を絞り込んで考えていかないと思うが。

(小林委員)

住環境は大きなテーマなので、ここで考えるのはどうか。

(末兼副部長)

どういうふうになれば、次のテーマとするか。住環境とは、住んでいる地区が違えば問題はいろいろある。次回開催は、9月の末～10月の初旬だと思う。そのときに決めるのでは遅い。本日に、ある程度決めたいと思う。

(荒井委員)

「暮らしやすい住環境づくり」が245件、「児童の登下校時の安全確保」が191件、「総合的な自転車対策(交通安全)の推進」が138件であるが、「暮らしやすい住環境づくり」の最も多い課題は何か。

(事務局)

自由意見から見ると、日照権の問題や近所の音がうるさいという課題であった。ただし、245件がすべて自由意見を書いてあるわけではない。

(荒井委員)

今、川崎駅をみるとポイ捨てのパトロールやっているが、どういう形でやっているのか、ボランティアなのか。

(事務局)

非常勤でやっている。路上喫煙を監視・取り締まりをしている。また、月に何度か生活環境事業所で清掃している。

(荒井委員)

私が普段感じるのは自転車なんだが、歩道をものすごいスピードで走ったり、無灯火だったり、一時停止を止まらなかったり、運転マナーが悪い。警察や交通安全協会と一緒にやらないといけないことかもしれないが、区でも何かアピールできないかと思う。

(小林委員)

自転車はマナーの問題もあるが、車道と歩道と自転車道みたいな、そのようなものも整備しないと取り締まれないのではないかと思う。本来は自転車は車道を走るものだが、自動車の運転手も自転車は歩道を走るものだと思っていて、自転車が車道を走ると警笛を鳴らすドライバーがいる。幸区は車道も歩道も狭いので難しい。

(荒井委員)

区民会議でどこまで提案できるか考えた方が良く、どこまでくらいだったら実現できるかをぶつけてみる。

(末兼副部長)

自転車についてみれば、警察関係者や道路関係の部局に来てもらい、資料を示してもらおう。それを見てどうするのか。警察では何ができるのか、道路関係部局では何ができるのか、テーマを絞っていく。そもそも自転車には免許がないので、モラルに訴えていかないといけない。

(荒井委員)

タバコの監視みたいに、監視する人を増やしていくかみたいなことも考えられる。

(末兼副部長)

逆に、幸区は自転車についてどのような課題があるのか、関係者に来てもらい、話してもらうことも考えられる。自転車にするのか、交通安全にするのか、切り口をどうするか。

(事務局)

交通安全という形で幸区における自転車の課題を把握するということでしょうか。

(末兼副部長)

それでは、自転車という形でよろしいか。

※全体で了承

(2) 次回部会の開催時期について

※次回の部会は、幸区の自転車の課題を関係する部局から説明してもらおう。関係する部局と調整して、9月下旬から10月初旬で調整。